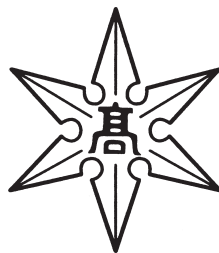


校

- 1 妙高山は峨々として 千古の白雪天をつき
日本海は汪汪と 万里の波濤空をうつ
山水霊なる越の国 学びの友垣一千余
- 2 学と徳とに身をたてて 期するは国家のまき柱
砂いさごの粒もつもりては みそらに高き妙高山
水の雫もたたへては そこひも知らぬ日本海
- 3 小善とても勉むべし 小悪とても犯すなよ
なるとならぬは天なれど 唯一筋に彼の岸へ
進むぞ我等の務なる 進むぞ我等の覚悟なる
- 4 思へば昔霜台公 能信越をきりなびけ
七尾城頭月きよく 戦勝の宴たけなはに
矛盾ぼこたへてうたひてし 威风ぞ今に芳しき



歌

- 5 治まる御代の我等には 仁義の兜知恵の弓
百折不撓の勇氣あり 堅忍不拔の剣あり
心にむらがる煩惱の 悪魔を払って進みゆけ
- 6 いとも畏し大君の 下したまひし大詔おおみこと
是ぞ我々学生の 心をてらすます鏡
眼に万卷の書を読み 胸に千古の理をさとり
- 7 日本やまとの国の国民くになみの 大和心をふりたてて
我が大君の御稜威よつよをば 万代までも伝えてん
是ぞ我等の務なる 是ぞ我等の覚悟なる

(注)

第2次大戦後は、校歌は、従来の6、7節を削り、1、2、4、5、3節の順序で歌っている。

応 援 歌

- 1 ああ群山に王者たる
妙高おろし吹きあれて
我を叱咤す朝な夕
鍛えし技に 鍛えし技に
鍛えし技に 敵はなし
- 2 ああ鮫城の森近く
西窓清き南葉山
光あふれる母校こそ
その名も高高 その名も高高
その名も高高 勝利は我に
- 3 ああ伝統は燦然と
六華に映ゆる高高の
健児があぐる勝どきに
怒濤も和する 怒濤も和する
怒濤も和する 時は来ぬ

高田の四季

- 1 高田の春は爛漫と
古城を包む春霞
ああこの地我等が故郷
頸城平の緑を越えて
虹がかかるよ妙高山に
- 2 高田の夏は爽涼と
日本海の波が呼ぶ
ああこの地我等が故郷
榊神社の森たそがれて
南葉の山に半輪の月
- 3 高田の秋はさやくして
青田の川に紅葉うく
ああこの地我等が故郷
森の都も錦をおびて
鐘がどよむよあの寺町に
- 4 高田の冬はひととして
繚乱香る六つの華
ああこの地我等が故郷
金谷山頭スキーに暮れて
雁木に映ゆる町並あかり